

● シンポジウムⅢ

ポスト MDGs: 2016年以降の開発戦略

ー全体から見た保健分野、保健分野から見た全体ー

座長：仲佐 保（国立国際医療研究センター国際派遣センター長）

渡辺 学（国際協力機構人間開発部次長）

背景と目的

ポスト MDGs を議論するに当たって検討しなければいけない課題は多岐にわたる。まずは、現行 MDGs の達成状況を踏まえたうえで、その利点と弱点の整理が必要である。その上で、ポスト MDGs に統合されることとなっている持続可能な開発目標（SDGs）、インクルーシブネス及び人間の安全保障等の概念整理が必要である。

保健分野は現行 MDGs の 8 つのゴールのうち 3 つを占めている。他にも貧困、食料安全保障、パートナーシップにも深く関係している。また、他の分野に比べて達成が危ぶまれている分野でもある。地域別に見た場合、東アジアや中南米では達成が見込まれている国が多くある一方で、南西アジアやサブサハラアフリカの LLDC においては、達成を危ぶまれている国が多い。

2016 年以降については、多くの課題を検討する必要がある。例えば、国によって達成が難しいとされている妊産婦死亡やこれまで各ドナーが重点として対応してきた感染症の取り扱いをどのようにするのか。新たな指標の候補として考えられているカバレッジと公平性をどのような視点で考えるのか。また分野横断的課題としての栄養や環境衛生（水、大気等）といった課題に加えて、近年 Double Burden を指摘される非感染症疾患（Non Communicable Diseases）や現行 MDGs からもれている家族計画等の課題もある。保健分野のポスト MDGs を議論するためには、総論を論ずるだけでなく、同時にこういった各論を整理する必要がある。

国連中心に 2015 年以降の世界の開発アジェンダを設定していくプロセスに対して、日本政府からも発信していくこととなっている。その過程にインプットすることを目的として、2012 年 7 月にポスト MDG に関する緊急フォーラムが開催され、論点の整理がなされた。フォーラムの成果の一つとして、国際保健医療学会、国際開発学会、JANIC、動く→動かす、国立国際医療研究センター、JICA の共催で Web Site: Beyond MDGs Japan が立ち上げられ、広く議論ができる場も設定された。

本シンポジウムにおいては、ポスト MDGs に対する理解をさらに深め、議論を深化させることを目的とする。MDGs 全体から見た保健分野、保健分野から見た MDGs 全体、および中心的な各論についての議論をフロアも交えて展開したい。

シンポジストと概要：

外務省国際保健政策室室長 小沼 士郎：Post MDGs をめぐる世界の動き、日本の対応

東京大学大学院教授 神馬征峰：総論と保健

ジョイセフ常任理事 石井澄江：CSO、リプロダクティブ・ヘルス

国際協力機構人間開発部 菊地太郎：国際保健の潮流と UHC

国立国際医療研究センター 明石秀親：Web での議論のとりまとめ

指定コメンテーター：

大阪大学大学院教授 中村安秀

厚生労働省大臣官房国際課室長 山内和志